


支援が必要な可能性のある児童生徒のAIによる スクリーニング支援

 大阪府教育庁 ×  大阪公立大学山野研究室
(協力：泉大津市、大阪狭山市、摂津市、藤井寺市)

1. 取組概要

- YOSS（※）と呼ばれる**AIスクリーニングシステム**を活用し、GIGAスクール端末から得られる各種データから、**支援が必要な可能性のある児童生徒の潜在的リスクを分析**。
さらに、当該児童生徒に対する**支援の方向性**なども、**AI分析により示唆**。

（※）子どもの遅刻や検診状況などの教職員が把握しているデータを基に、AI分析により、支援が必要な可能性のある児童生徒をリストアップできるシステム。

- 
- 支援が必要な可能性のある児童生徒の潜在的リスクの早期発見など、子どもをめぐる様々な**データを用いた子ども支援のモデルの構築**を目指す
 - 学校内におけるスクリーニング体制のみならず、要保護児童対策協議会や地域の支援資源につないでいく



地域全体での誰一人取りこぼさない支援体制の確立が期待



1. 取組概要

スキームのイメージ



GIGA端末から
得られるデータ等を分析

理職・生指	地域担当	調査	④その他	★項目の入力件数	①と③から④の合計	スクリーニング会議
福祉 ⑧生指案件 ⑨その他	地域からの情報 ⑩子ども食堂・居場所 ⑪放課後学習支援 ⑫家庭教育支援	④生活状況調査 ⑤いじめアンケート ⑥その他	④その他		2	子どもの背景 具体的なフォローポイント内容 校内チーム会議に於ける 校内チーム会議A判定 複数人で出した今後の方向性
						1 A
						1 A
						1 B

AIがスクリーニング会議
でとりあげる必要がある
生徒に「1」のフラグをつ
ける

分析結果をもとに、「スクリーニング会議」「ケース会議」等で議論



山野則子研究室「スクリーニング活用ガイド」(2019)より引用

学校と専門機関との連携
(児童相談所等)

地域人材による支援
(家庭教育支援等)

学校内における見守り
(担任による注視等)

迅速かつ、きめ細かな支援を実現



2. 課題解決への先端技術の活用

■ 技術の活用方法

実証校：小学校 16校、中学校 5校
(協力：藤井寺市・大阪狭山市・泉大津市・摂津市)
高等学校 1校 府立泉尾工業高等学校

■ 実施スキーム

コース Y O S S 導入の6工程 <small>作成：大阪公立大学山野研究室</small>		スケジュール予定	
		1回目	2回目
1	研修 研修① スクリーニングの意義を理解する 研修② スクリーニングチェック、会議の模擬体験	10月	—
2	振り返り 打ち合わせ 研修の振り返り スクリーニング会議に向けての事前打ち合わせ	10月後半	1月前半
3	スクリーニング会議 スクリーニング会議 実施	11月	1月
4	振り返り 打ち合わせ スクリーニング会議の振り返り 校内チーム会議に向けての事前打ち合わせ	11月後半	1月後半
5	校内チーム会議 校内チーム会議 実施	12月	2月
6	振り返り 校内チーム会議の振り返り	12月後半	2月後半

2学期 (1回目)

従来のExcelベース

3学期 (2回目)

本事業のAI (クラウド) ベース
により違いを検証



2. 課題解決への先端技術の活用

■ 具体的な日程一覧（大阪狭山市の例）

	1回目（Excelベース）		2回目（AI（クラウドベース）	
	スクーリング会議	校内チーム会議	スクーリング会議	校内チーム会議
東小	11/14	12/9	2/20	3/10
西小	①②11/14 ③④11/18 ⑤⑥11/22	12/8	①②2/10 ③④2/17 ⑤⑥2/24	2/28
南第一小	11/28	12/5	2/6	2/20
南第二小	①10/25 ②11/24 ③11/8 ④⑤11/22 ⑥11/15	12/2	(調整中)	
北小	12/6	12/23	(調整中)	
南第三小	①～④11/21	12/6	①②⑤⑥2/21 ③④2/13	①②3/14 ③～⑥3/7
第七小	①11/17 ②11/14 ③～⑤11/18⑥11/25	①～③11/24 ④～⑥12/22	(調整中)	
狭山中	①②11/15 ③11/28	①11/29 ②12/6 ③12/13	①2/14 ②1/26 ③1/25	①2/28 ②2/14 ③2/7
南中	①11/28 ②11/21 ③12/1-2	①12/13 ②12/6 ③12/20	(調整中)	
第三中	11/15	①11/17 ②12/1 ③12/15	2/21	①3/16 ②③3/9

※ ①～⑥は学年



■ 技術活用上の工夫（人的・運用面、施設・環境面、等）

YOSS_AI（クラウドベース）導入時における学校への支援

▶ システム技術

事業者（パナソニックコネクト株式会社）によるシステム導入時の支援

▶ スクリーニング専門技術

大学研究室（大阪公立大学山野研究室）によるスクリーニング実施時の支援

- ▶ スクリーニング研修の実施（6工程の①）
- ▶ スクリーニング会議、校内チーム会議の事前打ち合わせによるスキルの伝達（同②④）
- ▶ スクリーニング会議、校内チーム会議に同席することでスキルの伝達（同③⑤）
- ▶ 振り返り会への参加によって成果と課題の確認（同⑥）

■ 技術活用上の課題

- ▶ 従来の「Excelベース」に馴染みがある学校ほど、システムを受け入れにくい場合も
- ▶ クラウドシステム活用の際の**個人情報**の扱い
- ▶ クラウドシステム活用により発生する費用面
- ▶ **「心の天気図」等、子ども自身が入力するデータとの連携**
- ▶ 広域自治体（府）と学校設置自治体（市区町村）との役割分担

■ 現場の声

- 普段から教職員が**同じ視点で子どもを見る**ようになり、子ども支援組織力が高まった。
- AIスクリーニングによって、子どもの状況が点数化され、**要見守りのフラグが立つことで、それまで気づいていなかった子どものリスクに気づくことができた。**
- だれが、どのように見守るのか、役割分担を書き込むことで、子どもの支援の方策が具体化し、より効果的な方策を検討し続けることができる。
- 短時間での効果的な会議運営により負担が軽減するとともに、**地域の子ども見守り機関等に会議参加を促しやすくなった。**就学前等の支援状況も把握できた。
- 今後、クラス替え等の際にも資料を作り直す必要がなく、切れ目のない支援につなげることができる。
- 今後、子どもの一人1台端末を利用した**子ども自身が心身の状況を入力するシステム等（例えば「心の天気図」）をYOSSと連携**させ、子ども自身の状況把握も継続して行えるようになるとさらに良い。

3. 先端技術を活用した効果

■ 成果

- ▶ AIベースではフラグが立つことで、Excelベースでは気づけなかった**子どもの変化に気づき、支援に結び付ける**ことができた
- ▶ 教員、SC、SSWなど**関係者が同じ目線で共通認識を持つ**ことができた

直接アウトカム	早期に子どもの課題が発見される	システム導入により発見された子どもの課題の数
	多職種協働で子どもを見守る体制作りが進む	見守り体制の整備状況
	教職員の精神的負担感の減少、業務の効率化が実現する	教職員の超過勤務時間、教職員の精神的負担感
中間アウトカム	問題を抱える子どもに適切な支援方針が決まる	地域資源の活用が必要と認めた子どもに対する支援の決定件数
	地域資源を使った対応策が可視化・共有化される	地域資源を使った対応策の実施策について関係者間で共有した実績数
	YOSSIに様々なデータが蓄積される	YOSSIに蓄積された指標やサンプルの数
	支援が必要な可能性のある潜在的リスクを早期発見する	支援が必要な可能性のある潜在的リスクを早期発見できた数
	子どもに対する理解をより深める	子どもに対する理解度
	地域ネットワークにより地域資源と教員の交流と理解が促進する	教職員の地域ネットワークに関する交流や理解度
	ビッグデータを用いた子ども支援のモデルを構築する	ビッグデータを用いた子ども支援のモデルの整備状況
	リスクのある子どもに対するケアに注力する体制が構築される	リスクのある子どもに対するケアに注力する体制の整備状況
	教職員の働き方改革がなされ、教科指導等に専念しやすい環境を構築する	働きやすくなったと回答した教職員の人数
	データをもとにリスクがあると判断した子どもの支援実績が積みあがる	リスクがあると判断した子どもの支援実績数

現在、アンケート等により確認中



■ 課題

【運用・入力】

- ▶ YOSSと「心の天気図」等、子ども自身が入力するデータとの連携や、ケースごとの支援経過の履歴（見える化）、リコmend情報等の出力など、より詳細な子どもの状況把握を可能にする
- ▶ クラウドシステム活用の際の個人情報への扱い
- ▶ クラウドシステム活用により発生する費用面

【地域資源とつなぐ】

- ▶ 支援実施先である地域資源を見える化し、各市町村で活用できるよう府としてデータ化（福祉との連携）
- ▶ システム上でも地域資源を検索できるような仕組みを取り入れることを検討

【人材育成】

- ▶ 地域資源とつなぐ、調整するSSW（スクールソーシャルワーカー）等専門人材の育成



■ 今後の展望

大阪府は、スクリーニングによる子どもの早期支援をスタンダードとしていきたい

その実現に向けて・・・

- ▶ YOSSに直接入力しなくても、**校務処理システム等他のシステムと連動等**により、支援の必要な子どもの状況をより把握しやすくするシステムの開発
- ▶ YOSSクラウドシステムのバージョンアップ
(**子ども自身での入力、支援経過の見える化、地域資源の検索機能の追加**など)
- ▶ 地域資源とつなぐ、調整するSSW（スクールソーシャルワーカー）等**専門人材の育成**
- ▶ 広域自治体（府）として、市町村全域を巻き込む（参加する）施策の具体化

大阪府スマートシティ戦略部、同福祉部、大阪府教育庁、公立大学大阪で構成する
「大阪子どもの健全育成プロジェクト会議」を中心に取組みを進めていく